

令和5年度第2回三重県脱炭素社会推進会議概要

- 1 開催日時：令和5年8月2日（水） 15:35～15:45
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明・回答、☆意見・質問）

議題 温室効果ガス排出量の削減状況及び各部局等における取組状況について

●窪田地球温暖化対策課長（資料1、資料2に基づき説明）

- ・本年4月20日に開催した第1回三重県脱炭素社会推進会議の中で、「三重県地球温暖化対策総合計画」を改定し、県域での温室効果ガス排出量を2030年度に2013年度比で47%削減、事務事業で52%削減という目標を掲げ、各部局で目標の達成に向けて主体的に取り組むことをお願いさせていただいたところである。本日は、最新の温室効果ガスの排出量と各部局における取り組み状況について取りまとめたので、共有したい。
- ・三重県域での2020（令和2）年度の温室効果ガスの総排出量は23,117千t-CO₂であり、2013年度比 15.3%減、前年度比3.1%減となっている。
- ・温室効果ガスの約9割を占めている二酸化炭素の排出量については、2013年度比で14.6%減、前年度比で3.6%減となっている。三重県域では産業部門の割合が55.3%と非常に高く、産業部門の削減については、2013年度比で9.5%減と、全体の14.6%減に比べると若干遅れている。業務その他部門については37.2%減、前年度比で11.5%減であり、新型コロナウイルスの影響による産業活動の自粛、特に営業所・事業所、スーパーや百貨店の営業自粛等による影響が大きいと考えられる。その反面、家庭部門については、全体としては16.5%減だが前年度比で7.4%増となっており、在宅勤務や行動自粛の影響があると考えられる。
- ・県の事務事業における2022（令和4）年度の温室効果ガスの総排出量は、

下水道事業と水道・工業用水道事業を除き45,059t-CO₂であり、2013年度比23.5%減、前年度比0.5%減となっている。詳細については資料2をご覧ください。7部局において前年度より削減が進んでいる。

- ・2022（令和4）年度を取組状況として、各部局においてLED照明化や公用車の電動化等が進んでいる。取組効果の一例として、県警本部では令和4年度に113施設でLED照明化を行っており、令和5年4、5月の2ヶ月間の電気使用量で、22.5%の削減効果があった。また、環境生活部廃棄物監視・指導課においてプラグインハイブリッド車を優先的に導入しており、平成27年度にガソリン車8台だったものが、令和4年度は全10台のうち8台がプラグインハイブリッド車に更新されており、ガソリンの使用量が34.4%減少している。また、四日市庁舎において高断熱窓への切り替えを進めている。

・2023（令和5）年度を取組については、引き続きLED照明化、公用車の電動化、窓の高断熱化を進めるとともに、伊賀庁舎において公用車駐車場を利用したソーラーカーポートの設置を計画している。2024（令和6）年度はそれらに加えて、国の交付金等を活用した太陽光発電設備の設置やZEB（ネットゼロエネルギービルディング）化、ゼロカーボンドライブといった取組を検討している。

☆（質疑等意見なし）

● 柘屋環境共生局長

- ・最後に知事から一言お願いします。

☆ 一見知事

- ・三重地域の温室効果ガス排出量について、2020（令和2）年度実績で2013年度比15.3%の減少となっているが、このままでは2030年度における47%

削減目標（2013年度比）の達成が難しいことから、各部局所管事業での更なる取組や企業と連携した取組など、機会をとらえて取組んでいただきたい。

- ・ 県の事務事業では、2022（令和4）年度実績で2013年度比23.5%の減少となっており、LED照明化や公用車の電動車化等による一定の削減効果が見受けられるが、2030年度における52%削減目標（2013年度比）にはほど遠い状況である。各部局においては、引き続きLED照明化や公用車の電動車化等の取組を進めるほか、地道な努力も含めて、取組を進めていただきたい。